



関西外国語大学 学長
大庭 幸男

おおば・ゆきお
1949年生まれ
1976年 九州大学大学院文学研究科英語学・英文学専攻
修士課程修了[文学修士]
1985年 アメリカ・マサチューセッツ工科大学客員研究員
1997年 博士(文学)大阪大学
1999年 大阪大学大学院文学研究科教授
2008年 日本英文学会理事
2010年 大阪大学大学院文学研究科副研究科長
2012年 日本英語学会理事
2013年 大阪大学名誉教授、日本英語学会会長
関西外国語大学外国語学部教授、学校法人関西
外国語大学理事
2014年 関西外国語大学大学院外国語学研究科長
2018年 日本英語学会顧問
2020年 関西外国語大学学長

実学志向のリベラルアーツ教育 語学をツールに時代の変化に即応した専門分野を学ぶ、

不戦の誓いを外国語教育に託す

本学は2020年11月に創立75周年を迎えます。この節目の年に学長に就任し、舵取りを担えることは、大学人として大変光栄に思います。

本学の歩みは、1945年に大阪市に創立された「谷本英学院」に始まります。創立者の谷本昇・多加子夫妻は、二度と戦争を繰り返さないという思いを、異なる文化、民族、宗教を理解する外国語教育に託しました。

1947年に関西外国語学校を開校し、1953年に関西外国語短期大学を、そして1966年に関西外国語大学を開学しました。外国語大学として後発だった本学は、話者人口の多い英語とスペイン語に絞り、外国語学部(英米語学科、スペイン語学科)を設置しました。1973年に大学院を附設、1996年に国際言語学部(2014年に英語国際学部へ改組)、2011年に英語キャリア学部を設置し、大学3学部、短期大学部、大学院からなる現行の体制が整いました。2013年には英語キャリア学部に小学校教員コースを開設し、学生数1万2000人の大学に成長してきました。

国際交流を軸に、外国語「で」学ぶプログラム

建学の理念は「国際社会に貢献する豊かな教養を備えた人材の育成」と「公正な世界観に基づき、時代と社会の要請に応じていく実学」です。この理念のもと、当初から国際交流に力を注ぎ、世界各国の大学と協定を結んできました。現在の協定校数は55カ国・地域、393大学に上り、毎年1900人の学生を送り出し、750人の留学生を受け入れています。従って、国際交流を軸とした教育プログラムが本学の教育の特徴といえます。そして一貫して、外国語を学ぶのではなく、外国語を手段に異文化を学ぶことを重視しながらカリキュラムを編成しプログラムを考えてきました。

最初にご紹介する「Super IESプログラム」も、英語を修得する留学ではなく、その先の英語「で」学ぶ留学を実現するためのプログラムです。米、豪、カナダの協

定大学と協働開発した独自プログラムは、英語の「聞く、話す、読む、書く」の4技能強化と、リサーチペーパーの書き方やプレゼンテーション方法などのアカデミックスキルを修得するとともに、Content-based Approach(内容中心教授法)を用い、世界のトピック等を教材に、専門分野の基礎知識も英語で学びます。英語キャリア学部英語キャリア学科と外国語学部英米語学科が対象で、Super IESプログラムを修了後、1年間の専門留学またはリベラルアーツ留学に臨むことになります。

「関西外大流グローバル人材育成プログラム」は、留学生向けの英語による授業を本学の在学学生も受講できるプログラムです。全学部対象に2018年からスタートし、開講科目数は60科目以上の多岐にわたります。留学生とのグループワークやディスカッションが中心の授業スタイルで、海外留学さながらの学びを実現しています。

2019年秋学期から、米のマイアミ大学とモーニングサイド大学との協定でダブル・ディグリープログラムがスタートしていますが、留学生が主に履修するの、この「関西外大流グローバル人材育成プログラム」です。海外の大学の学生が日本の大学に編入学して学位を取るには原籍大学で単位認定される必要があり、特に米米大学の質保証は厳しいことから、本プログラムが世界標準の質であることを意味しています。

グローバル人材として世界で活躍する卒業生

これまでに輩出した18万人の卒業生は、外務省や領事館などの海外機関のほか、語学の強みを生かして、日本企業の海外赴任や外資系企業で活躍しています。特に最近では上場企業への就職が増えてきました。英語キャリア学部においては、リーダーシップを備えた「高度国際職業人」養成を目的に、「英語学」と経済学や国際関係学などの「社会科学」を融合し、3年次の専門留学を必修化する先進的なカリキュラムを取り入れてきた成果が現れてきたようです。

また海外インターンシップやボランティアへの参加

が活発なことも、本学のグローバル人材育成に学生が応えてくれている証拠です。2019年度に海外インターンシップに参加した学生は138名、海外ボランティアは84名でした。海外からの留学生を日本企業に1カ月程度派遣する「海外留学生グローバルインターンシップ」も行っていて、派遣先企業数は36社、派遣人数は54名と開始当初から倍増しています。

2018年4月には「御殿山キャンパス・グローバルタウン」を開学し、敷地内に「GLOBAL COMMONS 結-YUI-」を設けました。本学の学生と留学生が学・食・住を共に過ごすことで、グローバル人材の素養を身につける学びの場です。高校生向けの体験入居が大変好評で、在学生の中にも入居を希望する声が増えています。

「Kansai Gaidai University への進化」

2009年に策定した中・長期ビジョン「関西外大ルネサンス2009」から10年が経ちました。これを継承しつつ、2025年の創立80周年から2030年に向けた将来像を示した「関西外国語大学ビジョン・中期計画」を、2019年に新たに策定しました。

5つのビジョンと8つの基本戦略を掲げ、ビジョンの中核をなすのは「Kansai Gaidai University への進化」です。めざす世界観は、「関西外大」ブランドの確立～変幻自在の人間学＝時代に即応した実学を志向するリベラルアーツ教育の関西外大(Kansai Gaidai University)へ～としています。

本学は欧米で「Kansai Gaidai」と認知されていて、これまでの「外国語大学＝単科大学」のイメージを払拭し、他の外国語大学や総合大学とは一線を画するという思いを「University」に込めました。その目標のため、語学をツールに時代の変化に即応した専門分野を学ぶ、実学志向のリベラルアーツ教育を推進します。まさに本学が一貫して重視してきた、外国語「で」学ぶ教育のブランディングであり、「オール Kansai Gaidai」の精神で教職員一丸となって取り組んでいきます。 